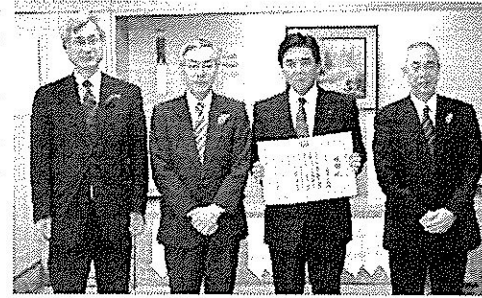


日本ハムに緑化運動への協力で林野庁長官から感謝状



日本ハムは7日、各都道府県緑化推進委員会を通じた「緑の募金」への寄付に対して、林野庁長官から感謝状を授与された。同社では、環境省が6月に設定している「環境月間」に合わせて、6月1日から7月15日に同社商品「上級 森の薫り」シリーズを対象に「みんなの街の緑を守ろう！」キャンペーンを実施。寄せられた応募はがき1通につき50円を、9月10日に応募者の住む各都道府県の緑化推進委員会「緑の募金」に寄付した。応募総数は9万9580通となり、497万9千円を「緑の募金」を通して、身近な地域や国内外の森づくりなどさまざまな活動の活性化に生かしてもらおう。日本ハムグループは今後も自然の恵みに感謝し、美しい地球を次世代に残すことが責務であると考え、企業活動のあらゆる面で継続的に環境保全に取り組むとしている。

東京Xが食育フェアに出展、動物福祉や豚肉のおいしさ訴求

楽しみなながら食を育もう!と東京都は10日、都内代々木公園ケヤキ並木通りなどで東京都食育フェアを開催した。会場には多くの食育関連ブースが出展され、食肉では東京Xアソシエーションが出展し、「アニマルウェルフェアと食育」をテーマに動物福祉や東京X豚の開発との歴史流通や試食等を通じて都民に呼び掛けた。特設会場では実際に東京Xを使つてのスライスの実演やしゃぶしゃぶの試食も行われた。試食には1頭分の豚肉がしゃぶしゃぶ用で提供され「普段は何も考えずに豚肉を食べていたが、動物福祉やXの生産開発や流通についての話をうかがって改めて豚肉の事が理解できた」や「東京X豚肉は、おいしいと聞いていたが食べてみて改めておいしさを実感した」と都民に好評だった。

エスフーズ第2四半期決算、卸売事業増加で売上6%増も減益

エスフーズ(株)は12日、平成23年2月期第2四半期決算短信を公表。連結売上高628億1900万円(前年同期比6・3%増)、営業利益20億3700万円(30・6%減)、経常利益21億8200万円(27・8%減)、四半期純利益10億4100万円(15・0%減)の増収減益。事業別には卸売事業が豚肉の販売シェア拡大に努めるなどで359億8200万円(18・5%増)。製品事業は「こてっちゃん」ブランド充実などを進め150億8900万円(5・3%減)。小売・外食事業は店舗のスクラップアンドビルドとコスト削減、競合激化への対抗策等を展開し、115億9800万円(8・6%減)。通期の売上高は1250億円(5・0%増)、営業利益45億円(19・7%減)、経常利益47億円(18・2%減)、純利益23億円(17・7%減)を予想。